

〈追 悼〉

故 矢郷弥太郎先生を偲ぶ



略 歴

大正10年11月19日	日本橋で生る	昭和41年 8 月	日本理学療法士協会設立
昭和 9 年 3 月25日	日本橋東華小学校卒	昭和42年 5 月	常任理事就任
昭和14年 3 月	独逸協会中学校卒(旧)	昭和42年 5 月	日本理学療法士学会 学会長就任
昭和15年 4 月	マッサージ免許取得	昭和44年 5 月	渉外部長就任
昭和18年 8 月	市川国府台に応召	昭和44年 5 月25日	アムステルダム世界学会出席, 日本の加盟について渉外部長として努力
昭和22年 9 月	シベリヤより復員	昭和46年 6 月	副会長就任 渉外部長
昭和36年 6 月15日	リハビリテーション療研究会結成 世話人となる	昭和47年 1 月	社団法人認可について尽力し1月26日認可
昭和38年 9 月	日本理学治療技師会理事就任	昭和48年 4 月13日	会長就任
昭和40年 9 月	厚生大臣指定講習会世話人として活躍	昭和48年 9 月12日	没
昭和41年 4 月	理学療法士試験合格		

追憶の記

関 川 博

矢郷さんは、5月鈴木会長代行と私を前にして、“実は会長就任早々で悪いけど、胃潰瘍なので Ope を受けるので1カ月程入院したい。そのあと1カ月程静養すれば元気になるのでそれ迄協会のことをお願いする。実はこのことを今日言おうか、明日言おうかと随分迷ったが、言ってしまったら肩の荷がおりたよ”と安心したように、“これで気楽に Ope が受けられる”と言い残して別れ、それから僅か3カ月後忽然と急逝され私の驚きと悲しみはこれに勝るものはなく誠に残念と云うほかありません。

私とあなたとの出会いは、あなたの弟秀弥と学友である私が疎開先である湯河原のお宅を訪ねたとき紹介され、そのときは、シベリヤ帰りの見習士官ということ以外は余り記憶にありませんでした。のちに20年近く苦勞を共にし、あげくに葬儀委員長をつとめるとは思いもかけませんでした。

あなたが東大病院理学療法室に就職以来、理学療法に従事する者の身分向上と新しい理学療法への探究は常に続け、多くの医師と親交を得て教えを受け知識の吸収につとめておりました。昭和36年有志と計って、リハビリテーション理学療法研究会を結成し、それまで兎角安易な目的として展開されてきた身分向上への運動は、新進の基礎学問を学ばずして何事もかなわずとして、乏しい資金の中からあなたは敢然として Rehabilitation と題した会報を発行し、数々の研究論文の紹介に努め、勉強会は東大南講堂を常設館として多くの先生方にご講義を受けることが出来ました。困難なときの苦しみは今

思い出となりむしろ楽しさと変り、あなたが世話人として活躍し、よく人を取りまとめ将来を夢見た時代をなつかしみ、南会と銘打って私共の繁りの場となったのに。

38年に国の施策は、リハビリテーション学院の新設を始め一連の法律施行の準備に入ったのを機会に、日本理学療法士技師会の運動方針と考え方的一致から研究会は同会と合同して、同会の常任理事として PT 合格まで活躍を見ました。昭和40年理学療法士法が制定され所謂特例による受験資格を得る240時間の厚生大臣指定講習会では、あなたの活躍は格別のものがあり、東大教授津山先生の御指導と期待に充分な働きを示し他の講習会の範としました。あなたの功績は高く評価出来るものと信じます。理学療法士に合格するや、協会設立準備委員として尽力し、設立以来常任理事として協会発展に努力を惜みず、第1回研修会学会を東大で開催し得たのはあなたの努力の賜です。第3回学会には、学会長の指名を受けると同時に最大の努力と精力的な動きを示して協会の持てる力以上の学会を開催し、当協会学会の礎を築きました。この学会開催前に岡山の児玉先生をお訪ねし、ご挨拶したとき、先生から、“矢郷さん10年ですよ、10年たてば良くなります、まあ10年頑張ってください”。この一言は後によく私に10年だなあ、と相言葉となりその10年目の会長の座にあって、幽明境を異にするとは、悲嘆哀切きわまりないものがあります。会長として理学療法士の直面している数々の問題点のうち、特に教育、研修の両面に力を注ぎ、教育に松村さん、研修に奈良さ

んとご両者にそれぞれ責任ある立場をお願い出来たときは半ば成功したように喜んでおられ、あと苦勞してライセンスを得た者がその労に報われるだけのことを成し遂げたいと、病床にあっても常に協会のことを考えあもこうもと計画中であったのに、あなた程真剣に協会を愛し発展に力を尽し、10年の区切がきたら、世代の交代をすると言い一日も早く病床を離れるのを楽しみにしていたのに。あなたの人となりは、よく竹を割ったような人と世評があり、江戸っ子としてのふん囲気を持ち人情に厚く人の面倒をよくみました。野本さんが病気で倒れたときなど、連日病室を訪ねはげまし、特に悪いときは終電車迄つめ、翌早朝には病室にあって看護につとめ日曜日にも必ず一度は顔を出すという程でした。この親切さは病院を訪れる患者さんにも見られ、本当に患者さんの気持になって心の杖になり、訓練のきびしさの中に優しさを持ち患者さんから感謝と親愛の情が寄せられ、治療家として最高の喜びを感じていたことでしょう。

あなたは何ごとにも誠心誠意物ごとに対処し、よく人の意見を取り入れ豊富な経験から協会長としてこれからというとき、あなたを失いました。協会として誠に残念というしか言葉がございません。また友として喧嘩もし喜びも共にし数々の思い出は泉のごとくつきぬものがあり、あなたが最後の2日前病床にあって最も愛唱していた“森の小径”をうたい、あなたらしく、きっとこんな病気に負けるものかとうたったのでしょ。う。癌によって他界されましたが、あなたがしようとしていたことは、あなたが育てた多くの人々によって必ず開花されるでしょう。安らかにおねむり下さい。（東京警察病院理学療法室科長、理学療法士）